

国際看護師協会

NURSES FOR PEACE

2024年12月最新情報



ICN ハワード・カットン事務局長（CEO）からのビデオメッセージ



カットンCEOはビデオメッセージの中で次のように語っています。「看護師は、他の人がたじろいだり逃げ出したりする時も、現場に駆けつけ、世界中の惨劇や災害の中で対応の最前線に立っています。ICNが[#NurseforPeace](#)キャンペーンを立ち上げたのは、これが理由です。

2022年2月のウクライナ侵攻後、世界中の看護師から、最前線にいる仲間との連帯を、看護師と看護師、協会と協会の間で、顔の見える実際のかつ有意義な方法で示そうとする大きな関心が寄せられました。それ以来、ICNの人道基金は、設備、医療用物資、シェルター、衣類、食料、研修、メンタルヘルスサポートなどに対する資金援助を行ってきました。

悲劇的なことに、近年、世界の多くの紛争地域で緊張が高まり、戦闘や人道的危機が増加しています。看護師は、最前線の看護師に実用的な援助を提供できるよう支援を続けています。ICNも、あらゆる場所での戦闘の停止と残された人質の解放を繰り返し求めてきました。



最前線にいる看護師は、戦闘や人道危機が過ぎ去った後、残された瓦礫や灰の中から保健医療サービスの復興と再建を担うことになる人々です。看護師は健康の担い手であると同時に、平和の担い手でもあるのです。だからこそ、[#NursesforPeace](#)は現在、ICN活動の主要な柱となっているのです。

ルーマニアのブカレストで今年開催されたICN125周年記念大会で、ICNパメラ・シプリアーノ会長と私は、ルーマニア看護師助産師医療助手協会のMircea Timofte会長とともに、職務中に犠牲となった世界中の看護師を追悼し、黙とうを捧げました。

今回の報告では、ICNの人道基金と#NursesforPeaceが、最も困難な状況で働く世界中の看護師をどのように支援しているかについて、最新の情報をお届けします。

ICN人道基金とNursesforPeaceキャンペーンに多大なるご支援をいただいた各国看護師協会、その他の組織、個々の看護師、一般の方々に心からの感謝を申し上げます」。

日本看護協会会長からのメッセージ

ICNは、ICN人道基金に多大なご支援をいただいた日本看護協会（JNA）に感謝の意を表します。JNAの高橋弘枝会長は、看護師への支援が日本の看護師にとっても重要だと考える理由を、以下のように説明されています。

「日本看護協会を代表して、ICNが各国看護師協会（NNAs）と連携し、看護師を代表し、発展させ、保護するために、たゆまぬ努力を続けておられることに感謝申し上げます。何よりも、人道上の緊急事態において人々の健康を守るために最前線でケアを提供している看護師の皆様に、心からの敬意を表します。

極めて困難な状況下において、看護師は、人々の心身の健康状態の変化に気づき支援するため、また、生活の再構築をサポートするために必要不可欠な役割を果たしています。しかし、このような状況では、ケアを提供する看護師もまた、支援を必要としています。日本ではこれまで多くの大規模な自然災害があり、日本看護協会は、看護師が被災した仲間を支援するシステムを構築してきました。ICN人道基金を通じた看護師への支援が、看護師がその役割を果たすために有意義かつ必要な活動であることは、私たちの経験からも明らかです。

私たちはICN人道基金の目的と活動に賛同しています。この基金が今後も最前線で働く看護師のニーズにタイムリーに対応できる効果的な支援を提供し続けるとともに、脆弱な立場にある人々の健康とウェルビーイングを向上し続けることを心から願っています」。



ICNとDirect Reliefの戦略的パートナーシップ



9月、ICNは人道支援組織**Direct Relief**と戦略的パートナーシップを結びました。Direct Reliefは、リソースの乏しい地域社会で保健医療専門職を育成し、困窮する人々の診断とケアの課題に対応することを目的とした、実績ある慈善団体です。

Direct Reliefは、その豊富なロジスティクス・計画・調整に関する専門知識を活かし、人命救助に必要な医療資源を迅速に、効果的かつ効率的に届けることができます。Direct Reliefの専門知識と、ICNの保健医療に関する知識や各国看護師協会（NNAs）が持つその土地の保健医療ニーズとサービスに関する深い理解を組み合わせることで、ダイナミックなパートナーシップが実現します。その結果、危機的状況にある看護師をサポートするICNの能力が強化され、最も必要とされる場所に迅速かつ集中的な支援を提供できるようになります。

Direct Reliefとのパートナーシップにより、専任の人道支援連絡調整オフィサーが任命され、ICNの人道支援活動は大幅に拡大しました。危機的状況にある地域のNNAsとの日常の連携が可能になり、看護師と保健医療システムが直面している課題に対する価値ある知見を提供できるようになっています。また、ICNは効果の上がる支援に的を絞ることができるようになりました。ICNは、看護師と保健医療システムの差し迫ったニーズに対応しながら、持続可能で長期的な回復力のための基盤の構築に集中的に取り組んでいます。

最前線からのメッセージ

ウクライナ：ウクライナ看護師協会Tetyana Chernyshenko会長からのメッセージ



「ウクライナの看護師に対するICNの協力と支援に感謝申し上げます。この残忍な戦争は今も継続中です。敵はウクライナのエネルギーシステムを破壊しようとしています。ロケットなどの兵器を使用して容赦なく一般市民を殺害し、病院、教育機関、住宅を破壊しています。

過去2年間で1,800か所以上の保健医療施設が攻撃を受け、そのうち214か所は修復不能までに破壊されました。しかし、ウクライナ国民全員が必要とする質の高い保健医療を受けられるように、戦闘が続く中でも破壊された施設の修復作業は続いています。これまでに、ウクライナ保健省とそのパートナー機関は500か所以上の保健医療施設を完全に修復し、358か所を部分的に修復しました。

しかし、施設は再建できて、ウクライナの看護師は仲間の死を悼んでいます。一部をご紹介します。

- Tatyana Nikolaevna Tikhonova——スミで勤務中に病院が爆撃され死亡。
- Maria Churikova——前線でのボランティア活動で多くの賞を受けたが、ハルキウで負傷した2週間後に死亡。
- Svitlana Shmyga——グリャイピリア地区のプライマリケア看護師、ザポリージャ地方病院で誘導爆弾による空爆で死亡。
- Marina Kaplun——感染症専門看護師、ドネツク地方のクラヒウカ村で砲撃を受け、娘とともに死亡。



Tatyana Nikolaevna
Tikhonova



Maria Churikova



Svitlana Shmyga



Marina Kaplun

ウクライナ国民は祖国のため、祖国の独立権のため、生まれ故郷のために崇高な闘いを続けています。ウクライナの看護師は、医師・救急隊員・軍衛生兵とともに、保健医療の最前線で団結して名誉ある職責を果たし、兵士や一般市民、その他保健医療支援を必要とするすべての人々の命を支えているのです。

ウクライナの看護師は、平和と平和な空の価値を誰よりも知っています。ウクライナの子どもたちは、敵の爆弾やドローン、ロケットから逃れて地下室に隠れて眠る必要のない生活、サイレンの鳴らない日常を夢見ています。

将来ICNに加入できるかもしれないという知らせを、ウクライナの看護師たちは大変嬉しく受け取りました。先日、地域看護師協会代表者会議を開催し、これらの問題とICNの#NursesforPeaceキャンペーンについて話し合いました。そして、現時点で私たちにとって最も重要なのは、この悲惨な戦争に勝利することであるという点で全員が一致しました。国際看護師協会の支援とサポートに深く感謝いたします」。

Project Kesharウクライナ

一方、ICNは、「Project Kesharウクライナ」への支援を拡大しています。第2弾の資金提供を行い、紛争地域の保健医療従事者向けに電動自転車25台を寄贈しました。先行する第1弾では電動自転車10台を寄贈し、ドネツク地方の最前線の都市であるクラマトルスクでの保健医療サービスを大幅に改善させています。

自転車の増強により、プロジェクトの範囲はハルキウ、ミコライウ、ドニプロの各地域内の十分にサービスが届いていない地域にまで拡大し、遠隔地やハイリスク地域の脆弱な人々に対するクリティカルケアが可能になると期待されます。実際に、第1弾の支援により保健医療従事者の移動時間が短縮され、患者訪問が1か月あたり3,600回に増加し、看護師の身体的負担も軽減されました。



第2弾の目標は、保健医療チームの機動性と効率性をさらに高め、これらの地域全体で新たに毎月9,000回の患者訪問を可能にすることです。ICNは、最前線で働く保健医療従事者が命を救う仕事を続けるために必要なツールを確実に入手できるよう、引き続き尽力します。

■パレスチナ：

2024年7月、パレスチナ看護助産協会（PNMA）がICNから受けた貴重な資金援助は、紛争が続く中もガザ地区で暮らし勤務している看護師にとって大きな支援となりました。この取り組みは、看護師が受けている途方もない重圧を軽減し、看護師が命に関わる保健医療業務を継続できるようにすることを目的としています。

PNMAはICNの資金を使って、ガザ地区の看護師とその家族に100ドル相当の食料品セット150個を配布しました。地元業者を通じて届けられた食料品セットは、2023年10月に戦争が始まって以来、給与の支払いがないにもかかわらず病院で働き続けている看護師の生活を支えるために不可欠な援助でした。おかげで当面の食料不安が解消され、看護師は配給の列に並ぶことなく、厳しい保健医療業務に集中できるようになりました。しかし、まだ多くの看護師が支援を必要としています。

この取り組みの主な目的は、過酷な状況にあっても看護師が保健医療を提供し続けられるようにすることでした。看護師の多くは戦争で荒廃した病院で無給で働き、扶養家族を養うのにも苦勞しています。この支援は勤務中に命を落とした看護師の遺族も対象としており、深い悲しみの中で切実に必要とされている救済を提供しています。

これまでにこの経済的支援を受けた看護師は150人に上っており、可能であれば今後も対象者を拡大する計画です。この支援により連帯感が生まれ、世界の看護コミュニティがガザの看護師を支持しているというメッセージが強調されました。具体的な支援を提供するだけでなく、ガザの看護師の心を奮い立たせ、極めて困難な状況の中で希望を与える支援となったのです。

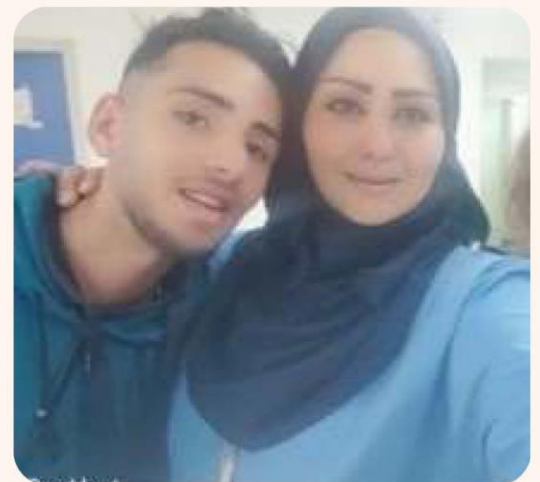
物流が滞っているため、PNMAがヨルダン川西岸からガザ地区の看護師に接触するのも非常に困難です。協会自体も財政的に安定しておらず、援助の拡大がさらに難しくなっています。ガザ地区の看護師は極度の危険、疲労、個人的な惨事に耐えており、長引く紛争で解決が見えない物流の問題が事態の悪化に拍車をかけているのです。

PNMAは、より多くの看護師を支援し、支援を求める看護師の声を広く届けるために、経済的支援の強化を求めています。現在の危機的状況を終わらせ、看護師が安全と尊厳を保ちながら命を救う仕事を続けるためには、世界的な連帯とアドボカシーが緊急に必要であることを、PNMAの活動が明確に示しています。

■ ある看護師・助産師のストーリー

看護師・助産師のWafaa Hamdan氏は、パレスチナのガザ地区にあるアル・シファ病院で看護サービスを提供していました。病院が襲撃された際、爆弾の金属片が顔にあたりました。病院から退去し、仮設テントの施設で治療を受けましたが、そこには薬も食料もありませんでした。

3か月後、ヌセイラト市で息子のRaif Ibrahim Lafi氏（右の写真はHamdan氏と息子）が殺害されました。赤十字に連絡したものの息子の遺体は見つからず、今日に至るまで十分に弔うことができていません。



■ レバノン：

レバノン看護師協会のAbir Kurdi Alame会長は、現在の危機的状況がレバノンの保健医療システムに与えている壊滅的な打撃についてICNに報告しています。深刻な人道危機にあって、同協会は看護師と看護師が働く組織とを支援する上で重要な役割を果たしています。活動の重点は、影響を受けた地域の悲惨な状況への対応、失業中の看護師の支援、国内避難民（IDP）への対応、看護師の社会的・精神的健康ニーズへの対応に置かれています。

危険地域では、病院の30%が機能停止または部分的にしか機能しておらず、看護師は危険に直面しながら、多くの場合、現場で生活しており、家族と離れ離れに暮らすことによる精神的な試練に耐えています。協会はこうした看護師への支援を優先し、看護ケアの提供を継続するために必要なリソースの確保を目指しています。また、病院の閉鎖により1,500人の看護師が失業した問題に対処するため、経済的支援を訴えるとともに、安全な地域での就職の機会を提供しています。

今回の危機により国内避難民が急増し、安全な地域にある病院にも負担が増しています。協会は、これらの病院が需要増に対応して病棟を増設できるように、危険地域から避難してきた適切な教育を受けた看護師の履歴書を病院に提供する支援を行っています。また、保健省と提携して火傷や外傷のケアに関する必須トレーニングを実施し、こうした専門スキルのニ

ーズの高まりに対応しています。

レバノン看護師協会は、レバノンの看護師、特に現在の危機的状況により避難を余儀なくされた看護師が抱える社会的ニーズへの対応に尽力しています。ICNからの寄付金をこの看護師の社会的ニーズの支援に充てる予定で、現在、調査を行ってニーズの把握に努めています。すでに回答のあった900人のうち、大半が医薬品や生活必需品を含む追加支援を必要としており、緊急の経済的支援が必要だという回答も45%に上っています。

2024年10月にICNが提供した資金は、極度のストレス下で働く看護師のニーズに関する調査に基づき、協会を通じて配分される予定です。調査結果からは、インフラの破壊、生活費の高騰、リソースの不足などによって深刻な経済的問題が生じていることが明らかになっています。

こうした数限りない課題にもかかわらず、看護師たちは揺るぎない献身で地域社会に奉仕し続けています。協会はこれまで複数の重要なニーズに対処してきました。たとえば、医薬品不足は公衆衛生省との協力を通じて解決され、心理的サポートを必要とする看護師はレバノン心理学者協会を通じてリソースにアクセスできるようになりました。

さらに、メンタルヘルスとストレス・暴力の管理に関する2件のウェビナーには220人以上の看護師が参加し、必要としていた助言と支援を受けることができました。

レバノン看護師協会は、ICNの#NursesforPeace基金からの財政支援に深い感謝の意を表しています。この支援のおかげで、協会は緊急のニーズがある看護師に直接的な経済的支援を提供することが可能になりました。

ICN人道基金により支援が可能になったものの、影響を受けた看護師全員が生活を立て直し、危機による精神的ダメージに対処し、彼らが行なう必須の業務を継続できるようにするためには、今後も追加の資金が必要不可欠です。

■南スーダン

南スーダン看護師協会（SSNMA）は、看護師の支援と同国の脆弱な保健医療システムが抱える重大な課題への対応に取り組んでいます。看護師は厳しい状況にあり、設備の欠乏、リソースの不足、紛争や自然災害、難民の流入が引き起こす混乱の頻発に直面しています。こうした困難の中でも、看護師はケアの提供に重要な役割を果たしており、特に遠隔地では、しばしば現場に医師や薬剤師がいない状況で単独で対応しています。

大きな問題は、必須の医療用物資と医薬品の不足です。配送の遅れ、サプライチェーンの非効率、一部の必須医療用物資の完全な欠乏などにより、保健医療の提供が著しく妨げられています。限られたリソースを効率的に管理し、備品の期限切れによる無駄を避けるための看護師の研修も必要です。ICNはDirect Reliefと提携して、具体的なニーズを把握し看護師の声を拡大することによって、これらの不足に対処すべく努力しています。

この国の保健医療システムは整備が遅れ、2011年の独立以来の慢性的な緊急事態や資金不足、システム上の脆弱性が継続しています。ICNの各国看護師協会組織開発（ODENNA）プログラムは、リーダーシップ研修と専門職開発に役立っているものの、臨床スキルとサプライチェーン管理に関するさらなる研修が急務です。また、看護師を保健省の組織に組み込むことにより、看護師自身が重要な改革を提唱する力を養うことが期待されます。

国内唯一の小児科施設であるアル・サバ小児病院でも、深刻なリソースの格差が生じています。患者の家族は基本的な医療用品を自費で購入しなければならないことが多く、その余裕がない家族の多くの子どもたちが治療を受けられないままになっています。以前のHealth Pool基金からの資金提供が利用できなくなったため、病院は需要を満たすのに苦労しています。ICNとSSNMAは、小児がん治療薬を含む必須医薬品と専門治療用医薬品の寄付を確保することで、これらの課題に対処することを目指しています。

結論として、南スーダンの保健医療システムは、経済・物流・環境の諸要因によって逼迫の状態にあります。それでも看護師は変わらぬ回復力を発揮し、極限の状況下でケアを提供しています。SSNMAとICNは、アドボカシー活動やパートナーシップ、リソースの動員を通じて看護師を支援することにより、南スーダンの保健医療インフラの強化に尽力しています。

■ スーダン

スーダン内戦では、看護師たちの目の前で、それまで順調に機能していた保健医療システムが崩壊しました。専門病院を含む数多くの施設が破壊され、多くの保健医療従事者が避難を余儀なくされました。今もやまない紛争は、広範囲にわたる人道危機を招き、数え切れないほどの人々が必須の保健医療サービスも受けられない状況に陥っています。

スーダン看護師協会（SNO）は、この危機の間も会員を支援し続け、国民のニーズを擁護するために懸命な努力をしてきました。

SNOは、コレラの発生に対する危惧を訴えるとともに、感染予防と管理に必要な輸液や経口補水液（ORS）、個人防護具（PPE）などの消耗品の緊急の必要性について懸念を表明しています。ICNはDirect Reliefと協力して、たとえば増加する子どもの栄養失調に対する治療など、物資支援を提供できる可能性のある分野の把握に努めています。女性たちは衛生用品を手に入れにくくなっており、国民の多くにとっては給水・汚物処理・医療廃棄物管理（WASH）に関する施設も非常に貧弱です。

スーダンの保健医療インフラは崩壊状態にあり、電力供給もなく、病院に電力を供給する発電機が切実に必要とされています。多くの専門医療サービスがこの影響を受けており、たとえば血液透析は非常に必要とされていますが電力なしでは実施できず、他の専門機器の多くも破壊されてしまっています。

SNOは、これらのサービスの再建を支援してくれるパートナーを必要としています。紛争によりがん治療薬が深刻な不足状態にあり、7か所のがん治療拠点が機能を失いました。保健省は近い将来、以前の7か所のセンターのうち1か所を再建することを目指しており、SNOはこの必須の業務を支援できるパートナーを探しています。

SNOはこれらの取り組みに積極的に関与し、目覚ましい回復力と献身的な姿勢を示してきました。緊急対応活動の調整に努め、ICNの支援を受けて緊急対応チームを設立しました。

スーダンの内戦はメディアでもその深刻度に反して注目されておらず、多くの団体の寄付や募金活動は、グローバルノースのメディアの注目が集まる他地域の問題に流れているのが現状です。国連食糧計画は、「スーダン危機は世界の指導者によって忘れられてはならない」と強調しています。

今のような極度に困難な時期には、国際社会の連帯と支援が決定的に重要です。ICNの当初の支援は多くの人々にとって命綱となりましたが、今後、支援の拡大が必要であることは明らかです。

直面している課題は膨大です。影響を受けた地域に到達することすら困難な中、保健医療組織は財政的に不安定で支援提供の能力が低下し、保健医療従事者は極めて危険な状況で活動しています。より多くの保健医療従事者を支援し、支援を求める声を拡大するためには、財政支援の強化と世界的なアドボカシー活動が極めて重要です。

スーダンで働くある看護師の証言

Enas氏は、スーダン内戦が続く中も、オムドゥルマンで献身的に働いている看護師です。国外に出てそれほど過酷でない環境で働くチャンスもありましたが、彼はスーダンに留まり、連日の砲撃と限界を超えた保健医療サービスという極度に過酷な臨床環境で働くことを選択しました。「母国で最も必要としている人々にケアとサポートを提供することが私の義務だと感じた」と語っています。

オムドゥルマンの病院の集中治療室と救急救命室で、Enas氏は救急外傷看護の最前線に立っています。前例のない数の救急入院患者がいながら必須の医療用物資すら欠乏するという、この多面的な問題を抱えた現状を、彼は次のように説明します。

Enas氏とその同僚たちは、集中治療室では生命にかかわる複雑な外傷を負った患者のケアにあたり、救急救命室では大量の死傷者に24時間対応しており、その仕事は肉体的にも過酷だと言います。



患者の苦しみを目の当たりにするだけでなく、武装した兵士が病院に侵入してきた際に自身も不安を感じるため、心理的な健康への負担となっていると明かします。

「日々の戦争現場への対応でメンタルヘルスに大きな影響を受けましたが、保健医療チーム、患者、家族間の相互支援がこの重圧を軽減する上で大きな役割を果たしました」と言います。

個人的な危険や心理的な困難にもかかわらず、Enas氏は患者のために働き続けています。

オムドゥルマンにおける最大の課題の一つは、必須のリソースが欠乏していることです。看護師は利用可能なリソースを創意工夫して活用することで、可能な限り最善のケアを提供しなければなりません。

「私にとって、看護は単なる職業ではありません。看護は勇気と献身を必要とする人道的なメッセージです。この紛争において、看護師は最前線で保健医療と心理的サポートを提供しており、重要かつ意義深い役割を果たしています。オムドゥルマンでの私自身の経験は、最も困難な状況にあっても、看護が人々の暮らしに大きな変化をもたらすことができるというエビデンスです。

私は、勇気と決意によって困難を乗り越えられること、そして看護は献身と人間性を必要とする崇高な使命であることを学びました。

どこにしようと、人は運命からは逃れられないのです」。

ICNの#NurseforPeaceキャンペーンの支援方法

ICNは、緊急事態の最前線で働く看護師のために資金を集めること、そして公衆保健医療システムに緊急事態が与える脅威に世間の注目を集めることを目的に、#NursesforPeaceキャンペーンを開始しました。ICNは人道基金を通じて多くの国の看護師に手を差し伸べています。この1年間で、イスラエル、レバノン、パレスチナ、スーダン、ウクライナのNNAsに支援が提供されました。

ICNの#NurseforPeaceキャンペーンに
寄付する

